

令和3年度
第2回朝日地域振興懇談会

会議録（概要）

期日：令和4年3月17日（木）

場所：朝日庁舎4階 大会議室

令和3年度 第2回 朝日地域振興懇談会会議録 (概要)

- 日 時：令和4年3月17日（木） 13時30分から15時50分まで
- 会 場：朝日庁舎 大会議室
- 出席委員：難波金一、亀井栄一、難波久男、菅原正成、渡部祐子、渡部巖、
遠藤恵子、伊藤比呂貴、宮崎ちよ 計9名
- 欠席委員：難波一彦、小野寺太、宮崎正、今野めぐみ、小野寺信子、難波一之
- 市側出席職員
 - 【庁舎】朝日庁舎支所長、総務企画課長、市民福祉課長、産業建設課長、
総務企画課 佐藤課長補佐、渡部専門員
 - 【本所】企画部地域振興課 飯野主査
企画部政策企画課 佐藤専門員 計8名

一次 第一

1. 開会

2. あいさつ

難波会長あいさつ

朝日庁舎鶴見支所長あいさつ

3. 協議

- (1) 鶴岡市国土利用計画（第二次）について
- (2) 朝日地域まちづくり未来計画について
- (3) 令和4年度 朝日庁舎主要事業について
- (4) その他

4. その他

5. 閉会

1. 開会 13時30分 (進行 総務企画課長)

2. あいさつ

①難波会長

豪雪だった冬もやっと終わりですが、コロナはまだ終息に向かわず、加えて、ロシアのウクライナ侵攻など、私たちの暮らしに暗い影を落としている状況です。ガソリンの値上げなどを含めて、生活への影響が大きいと思います。皆さんの意見で、この地域が来年度に向けて、明るく展望が持てるような会議にしたいと思う。ぜひ、忌憚のないご意見の交流をしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

②朝日庁舎支所長

3. 協議

会長 それでは協議 (1) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。これらについて皆様から質問、意見いただきたいと思ひます。よろしくをお願いします。

委員 資料2を見て、再生可能エネルギーについての意見です。基本的には太陽光や風力の活用だと思ひますが、どちらも朝日地域には、あまり適さないと思ひます。小さい水力発電のようなものを、各地域で持つことは可能なのかどうか。また、例えば月山ダムにソーラーパネルを敷くのも良いと思ひますし、中山間でないとできない発電の方法があると思ひます。これから10年先の話しとなると、平場ではできないような発電方法というの、何か考えていかなければならないと思ひます。

政策企画課 確かに再生可能エネルギーの活用については、風力等が多いと思ひます。説明させていただいた今回の計画は、大まかな全体的な計画となっておりますので、具体的なエネルギー戦略については、個別の計画で取り組んでいくこととなります。ご意見いただいた、地域によってどのようなエネルギーを活用していくかということは、今後検討していくことになると思ひますので、担当課に今回のご意見をお話しさせていただきます。

委員 関連して細かい話ですが、再生可能エネルギーも電気な訳ですが、聞いた話だと、水力を活用した荒沢ダムの発電について、春の雪解け水が多く流れている時期だと、発電に活用できる取り込める水量が決まっているため、多くの水が活用しきれていないということを知ったことがあります。細かい話ですが、最高出力を多くして活用できたら効率的だと思ひました。

委員 企業局の職員ではないので、詳しくは分かりませんが、現場で作業することもあるので私も関連して、雪解けの今の時期は水量も増えているので、季節毎に合わせた形で発電していると思ひます。しかし、発電能力に最大容量、限界があると思ひるので水量が多い時期は、水が全て取り込めないのだと思ひます。先ほど意見が出た、

各地域に小さい水力発電を取り入れることは私も良いと思います。また、別の問題になりますが、水力発電の維持管理、例えば、設備に詰まったゴミ取りなどの現場の作業を、地域運営組織が担う代わりに電気が多少安くなるなど公益を受けることで、自分たちが活用している実感が持てたら良いと思いました。

会長

国土利用計画の「多様な主体の連携・共同による市土の運営」について、新たな仕組みづくりを進めるとありますが、具体的にどのような仕組みづくりを考えていますか。また、農水省が育成しようとしている農村型地域運営組織で進めるのであれば、地域の様々な組織が関わり、関係する制度や施策も多岐にわたるため、市がコーディネートしながら道筋をつけていくことになると思うが、どのように考えていますか。関連して、中山間の後期事業の中で集落機能強化加算が今期（第5期）からスタートしましたが、非常に分かりにくかったです。制度を良く見ると、例えば地域のお年寄りの見守り隊や雪下ろしなどにも使える非常に良い制度で、地域の組織づくりを手伝って進めたらさらに良い制度になると思います。市はその辺をどう考えていますか。それから、この制度を研究している山形大学農学部の渡辺理絵先生を呼んで学習会はできないでしょうか。

政策企画課

一つ目の新たな仕組みづくりについて、この計画自体は大きな方針であり、具体的な何かをお示ししたものではありませんが、例えば新たな仕組みづくりに関しては、会長がおっしゃった仕組みも考えられますし、加えて鶴岡市で現在行っているSDGs未来都市推進パートナー制度を活用して、企業や団体と一緒に取り組むことも考えられます。仕組みづくりについてはこの計画を踏まえてこれから行っていくもので、この計画で具体的な列記をしたものでないことをご理解いただければと思います。

産業建設課長

二つ目の中山間の直接払いについて、朝日地域では26団体が活用しており、予算的には鶴岡市全体で2億7000万円、その内、1億円が毎年朝日地域の方々に交付されている状況です。お話しいただいた交付対象について、資料が手元にないため、後程調べて報告させていただきたいと思います。先ほどの国土利用計画の中で、朝日地域の農業を考えた場合、やはり高齢化が進んでおり、農業以外の人や朝日地域以外の人、企業・法人など、様々な力を出し合って関係を作っていくと、今後10年先を考えた場合、持続していかないと考えておりますので、そこも踏まえて進めていけたらと思います。

会長

特に朝日地域は、いろんな形で結びついていかないと、農業者だけで農地・林業者だけで山林を行うことができない状況になっているので、自治組織も含めて連携していく必要があると思っています。先ほど中山間の交付金制度に触れたのも、自治会を含めてみんなで取り組んで、企業もそうですし、連携して取り組むことを学びながら進めていったら地域づくりに結びつくと考えたからです。ぜひそこを研究して進めて欲しいと思います。参考にして欲しいのは、先ほども言った、山形大学農学部の渡辺先生が研究した事例をこの地域の中で広げられたら良いのではないかと、思います。

委員

具体的な計画の策定にあたっては、保全と開発の相反する面、例えば自然維持地域の側面であれば、野生動物の保護と動物の生活基盤が破壊されるというような、相

反する面についても考慮して欲しいと思います。それから、中山間の土地利用について、中山間地は休耕地が増えて山の手入れもしなくなり土地が荒廃していくと思います。水路や道路の荒廃が災害に繋がっていくと思います。冬の雪の問題もありますし、中山間地域にそのような状況が到来することに対応した形での計画をお願いしたいと思います。

政策企画課 この計画は大きな方向性を定めるもので、具体的な内容、保全と開発や農村地の保全検討については、例えば、個別計画の「農業振興計画」や「立地適正化計画」あるいは「都市計画マスタープラン」で対応して位置付けになっています。この鶴岡市国土利用計画は全体の方向性を定めたものをご理解いただけたらと思います。

会長 それでは協議 (2) と (3) について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員 高校生が通学時にバス定期を購入する費用に対する支援について、対象の地域が限定されていると思いますが、対象になっている生徒の保護者に、制度の案内はしていますか。もう一つ、地域を支える人材育成プロジェクトの中で、交流活動を支援する事業「朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業」の具体的な内容を教えていただきたい。

総務企画課長 高校生の通学支援事業については、朝日地域の定住支援と生活交通確保対策という意味もあり、朝日地域全域が対象です。また、当事業は創設当時から、同条件である考え方のもと、温海地域と朝日地域が同じ条件で高校生に対しての通学支援を行っている経過があります。制度の案内についてですが、進学前の中学三年生へのチラシ配布、また、春に全戸配布のチラシを発送しております。また、制度を利用中で引き続き該当する方に対しましては、声掛けしております。「朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業」については、担当から説明させていただきます。

総務企画課 今年度始めから「朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト」として、各地域から2、3人ずつ声掛けさせていただき、朝日中央コミュニティセンター地域部の皆さんと一緒に活動してきました。「チームWaGeSho (ワゲショ)」とは、集まった若者で考えたチームの名前です。「WaGeSho」とは方言の「若い衆」をローマ字にしたものです。具体的な活動は、東北公益文科大学の武田真理子先生を講師にお招きしたワークショップから始まりました。朝日地域の良い所を実際に見てみよう、朝日めぐりを企画して若者目線で地域の活用できそうな資源を見て回りました。ワークショップを行う中でやりたい活動を若者自ら話し合い、事務局で何かしようと提案するのではなく、導く形で行っています。令和4年度にキャンプに関する活動・イベントを行いたいと考えたので、先進地視察として、鮭川村のエコパークや山形方面の民間のグランピング施設の見学も行いました。「チ

- 「ムWaGeSho」は、若者が集まって何か面白い事をやろうと活動する、昔の青年団の様な事業です。
- 総務企画課長 担当の説明に加えて、現在コロナ禍であるため、対面での交流や活動のほかに、SNSのオープンチャットなどデジタル技術を活用した交流を実施し、できる限り切れぬ形の繋がりを持っていきたいと取り組んでいます。
- 会長 活動を行って、何か課題などありますか。
- 総務企画課 参加者を募集する、周知の方法に課題を感じています。活動内容の説明が難しいため、現在は参加者が友達を連れてくる形で少しずつ増えています。ただ、実際にイベントを行うと当日が夜勤で参加できない若者が結構多いため、そういった面でも難しさを感じています。また、SNSを活用することで、今は朝日地域以外に住んでいる若者にも活動を知ってもらえることは良いのですが、実際に一緒に活動できないことも残念です。しかし、SNSでの繋がりを持続していきながら、いつか帰って来た時には一緒に活動できる形で進めていきたいと思っていますので、見守っていただければと思います。
- 委員 湯殿山スキー場の修繕工事は、かなり大きな工事になるようですが、現在のスキー場の利用状況はどんな状況ですか。
- 産業建設課長 湯殿山スキー場について、昨年からコロナの影響で、利用者が減っている状況です。1990年代前半までのスキーブームの際は大変賑わっていましたが、段々下火になった時に、このコロナの影響があり、今年は特にスキー教室も半分がコロナの影響で中止になってしまいました。また、学校が学年閉鎖している中でスキー場に来ることにためらいがあったのか、非常に子供たちが少ない状況でした。また、湯殿山スキー場は、地域の方だけでなく、県外からも多くおいでいただき、コロナになる前は、外国の方もいらっしゃっていましたが、去年今年は非常に少ない状況でした。今回のリフト整備についてですが、これまで第2リフトは老朽化のため、廃止しておりましたが、第2リフトがないとスキー場の中央の部分が滑れないという声を多くいただいており、スキー団体と協議した上で、再建が決定され、今年と来年の二箇年で整備をすることで進めております。何ととも来年の12月オープンに向けて、新しいリフトができたということで多くのお客様から来ていただきたいと思っております。
- 副会長 この2年位、コロナの影響で集客が難しいためにイベントができず、活動が制約される状況にあります。このような状況が続く、これからはコロナ禍でもイベントを行えるように、生活形態が変わっていかねばならないと思いますが、考えていることなどありましたらお聞きしたいです。もう一つ、朝日中央コミュニティセンターの大集会室の緞帳についてです。現在、故障のため緞帳が下がらない状況ですが、いつになったら直るのかお聞きしたいです。朝日に育った者にとって、シンボルマークのような緞帳で、姿が見られないのはとても残念です。今わかる範囲で結構ですので、お願いします。
- 総務企画課長 一つ目の生活形態について、先日、イベント推進委員会を開催して、令和4年度のイベントの開催について検討しております。しかし、感染の現状が高止まりする中で、不特定多数の方を密集した場所に集めるのは極めて困難だろうと考えます。ま

た、具体的にどんな形であれば感染防止対策を徹底できて、ある程度お客様を呼び込めるかという部分については、まだ確定したマニュアルが確立されていないと感じております。副会長からお話しありました、産業文化まつりについても、昨年度、お祭り広場も含めて開催を検討しましたが、やむを得ずステージ部門を中止しました。様々な団体の活動する目的にもなっているまつりの中止で、団体活動の維持が難しくなっているお話しもお聞きしております。しかしながら、これに関して、鶴岡市として根本的な解決策を見出すことは難しい部分があると感じています。二つ目の緞帳に関してですが、昨年12月頃に故障し、令和4年度の予算要求には計上されておられません。しかしながら、緊急性が高い事業については、優先的に実施するという考え方がありますので、朝日中央コミュニティセンターの利用状況やそれ以外の施設の修繕の状況等を勘案しながら、対応について検討したいと思います。

委員

四つほど意見と質問させていただきます。一つ目は、寿岡堆積場の耐震対策工事についてです。地震等で土砂が川に流れないようにする工事だと思いますが、そもそも堆積場の山自体をほかに運んで無くすることはできないでしょうか。今回の対策工事を行い法面保護等行ったとしても、老朽化が進めば再び工事する必要があり、行政コストがかかるということ、加えて景観的な意味合いでも、大鳥自然の家を運営し、自然のイメージを大事にしていますが、工事内容次第では舗装などの人工物が多くなり、イメージを損なうという意味でも堆積場を無くすることはできないでしょうか。二つ目は、お聞きしたいことです。集落対策推進事業では、地域おこし協力隊と集落支援員を配置しているということで、朝日に集落支援員がおりますが、現在協力隊員をどこで募集しているかお聞きしたい。三つ目はぼんぼについてです。令和4年で営業が終了するとお聞きしています。朝日の人でも多くの方が利用していて、採算は合わないですが、年間で約4万人が利用している温泉施設を、できて30年位で閉じるのは少しもったいなく感じます。ぼんぼの営業はやめるけれども、例えば施設そのものを、やりたいという民間の会社があったら、再スタートさせるような道も探せたら良いと思います。最後の四つ目ですが、国土利用計画に関連した砂防ダムについてお聞きしたいです。昭和61年位に赤川の直轄砂防事業が計画されて、そこから河川に色んな砂防ダムが造られた訳ですが、今後はどのような計画なのか。砂防ダムをいくつ造れば、市民の生活安全が守られて、これ以上はいらぬよというような基準があるのかどうか。砂防ダムに関しても開発と保全の両輪は相反する概念で、難しい部分ではありますがお聞きします。

総務企画課長

一つ目の寿岡堆積場についてですが、今のところ工法については、安定化対策ということが中心で、これから工法が決まる予定です。堆積場の現在の状況は、外側に普通の土があり、中に入っている状況です。委員がおっしゃるとおり、セメントなどで法面対策するケースもありますし、杭を打って土を止める工法も可能性として考えられます。国からの要請の段階でも安定化対策に関する要請であり、土を搬出することは想定していないところです。次に二つ目の地域おこし協力隊についてですが、温海とほとりあで現在、募集しています。

市民福祉課長

三つ目のぼんぼについてお答えします。施設の活用については、貸付や譲渡先を検

討しています。どなたでも良いので、民間でも企業の保養所でも地元の団体でも、温泉を引き続きして下さるのが一番良いと思いますが、まだ、その為の条件等の検討、どのような条件であれば貸せるか、譲渡できるかといった確認のスタート地点に立ったばかりです。ぼんぼがある場所が福祉エリアであるため、貸与や譲渡する相手方に条件が必要かどうかも含めてこれから検討していきたいと思っています。

産業建設課長 四つ目の砂防ダムについてお答えします。国で進めている事業なので、国から聞いた情報ですが、現在完成しているダムの数は24基です。今、十座沢の方でも工事しておりますし、計画しているダムが17基あります。地域の方に伺うと、大雨が降ると流される危険性があるので、砂防堰堤を造って欲しいという意見を多く聞きます。国では、数を計画して造るというよりは、道路を守るため、民家を守るため、そういった場所に造っているように感じています。砂防ダムの造り方も、今までだとダムを造っていっぱいになるとそのままという形でしたが、これからは堰堤に埋まった土を取っていくような形の砂防ダムに変わってきているようです。

委員 朝日地域全体的な話になりますが、鶴岡市のなかでも特に朝日地域は人口減少・高齢化が進み、今後も一層進むだろうと思います。地域も非常に広範囲で点在しており、冬場も厳しい環境にあります。また、かたくり温泉ぼんぼの営業終了、商工会・森林組合の非常勤化、そのほかにも月山あさひ博物村、産直あさひ・グー、大鳥自然の家など公設であります。予算的にも非常に厳しい環境下にあります。そしてまた、JA庄内たがわ農協も2、3年後に地域部門として、出張所になるということも聞いております。商店も無くなり、買い物もままならなくなり、バスも公共交通もなかなか思うようにならないという状況が考えられます。その時に、必要なのはやはり、これからの朝日地域はどうあるべきということを、官民挙げて議論していく場だと思います。朝日地域の三つのコミセンも含めて、お互いの役割と機能の分担をしながら、未来を見据えた地域の在り方を考えていかなければならず、早急に取り組む課題だと思います。個々の問題ももちろん大事ですが、総体的なあるべき姿を描いてそこから行かなければならないと思います。高齢者対策無くしてはこれからの朝日地域を守れないと思いますので、早急にお互いに議論する場を作って欲しいと思います。それから、これは鶴岡市全体の課題でもあるので、地域振興課や長寿介護課なり、横の連携も含めた形で検討して欲しいと思います。

総務企画課長 ご意見ありがとうございます。市としてもそれぞれ個別の課題に対して、困っている声、ニーズを捉えながら交通対策など色々な施策に取り組んでおります。ただ、委員がおっしゃるとおり、高齢化などの課題は根本的な解決に至らなかったと感じております。ご提案のこれからそういった協議の場を設けていくことについては、今後、地域コミュニティ組織も含めたうえで、行政とどういった構成にしたら良いのかも含めて検討していかなければと思います。

支所長 ご意見をいただきありがとうございます。今後の朝日地域の姿を考えた場合に、個々の課題対応でなく、もっと広い視点を持って市全体で取り組むべきではないかというご意見をいただいたと思いますので、そういった考え方を含めていくために、どういった検討が必要なのかについても、さらに検討していきたいと思っています。

委員 中山間の直接払いは、農業が大変厳しい状況なので、すごく良い事業だと思ってい

ます。ただ、多面的機能支払活動支援事業の支払いの方法として、長寿命化の支払いの割合が落ちてきており、60%位になっている状況です。計画的にいかないことがあるので、できれば満額を支給してもらえればと思います。

産業建設課長 団体の取り組みに見合った形でのお支払いになるもので、要件に上手く合致できるかどうかの影響します。事務局としても、このように取り組んでいかないかなど誘導も大事だと思いますので、制度を有効活用してもらえるように取り組みたいです。また、先ほど中山間の直接払いの加算のところで優良事例があるとお話がありましたので、できるだけ有効に利用できるように、進めていかなければと改めて感じましたので、引き続きよろしくお願ひします。

会長 それでは協議(4)について事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

会長 ただ今事務局から説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問をいただきたいと思ひます。いかがでしょうか。

委員 防災の拠点として、木造建築で耐性に問題はないか。ニュースなど映像を見ると、水害や津波の後に残っているのは、鉄筋の建物が残っています。庁舎からは最後まで残って欲しいと思ひるので、木造建築の耐性が心配に感じました。もう一つ、朝日分署の場所についてですが、予算的にも、防災の拠点としてまとまるということからも、計画の場所で考えているようですが、市道への出口が出にくくないか心配です。現在の朝日分署は国道に面していて、建物もあまりないし、すぐに走るにはすごく良いと思ひます。

総務企画課長 始めに木造建築についてお答えします。一つは鶴岡市で木造建築の推進を行っているということがあります。これまでの例をお話しすると、羽黒分署と羽黒庁舎の改築も、木造と鉄筋コンクリート造の並びで整備しており、市の方針としても木造建築を進める部分があります。また、公共施設のゾーンという考え方についてですが、まず、防災拠点施設の機能、いわゆる行政としての機能は新庁舎ですが、避難所としての機能については、基本的に朝日中央コミュニティセンターを活用するという考え方に立っております。次に構造の話になりますが、木造建築であるから耐震性がないということでは決してないと思ひ理解いただきたいと思ひます。それでは火災の場合は大丈夫かということも当然でできますが、実際に万が一、火災が発生した場合でも、防災上の機能としては、木造であっても鉄筋コンクリート造であっても基本的な機能としては、十分対応できるという整理をしております。朝日分署についてですが、以前も地域の方から同様の話しをいただいたことがあります。現在の朝日分署の場所に建てようとした場合、空きスペースに建てるのが困難であり、現在の朝日分署を稼働しながら、新しい分署を建てる必要があるため、現庁舎周辺を建設場所としたものです。また、防災機能の拠点とした場合、分署と庁舎の職員が一体となって作業できる段階で、防災の対応が容易になるということ、また、建

築コストの関係で、分署と庁舎が合築することによって、事務室や会議室を集約できるコスト的な面、その組織的な活動の面という部分でメリットがあるという考え方も理由の一つです。合わせて、市道への出口についても、建物の向きや角度を考慮して、より安全に出入りできるよう整備して参ります。昨年度の段階で、落合地域の住民の方にも分署と庁舎の合築に加えて、木造と鉄筋コンクリート造という形の説明をさせていただきました。

委員 関連した質問ですが、庁舎正面の市道について、川岸が近いですが、水害が起きた場合、道路が冠水するような問題はないだろうか。

総務企画課長 洪水ハザードマップを確認しておりますが、浸水想定エリアに入っておりません。確かに川が見えるため、怖い感じがするかもしれませんが、川の河床の高さを考慮しても、道路までかなりの高さがあるため、エリアとして増水の可能性は低いという整理をしております。

委員 木造建築を計画する中で、鶴岡市の市有林や昔の学校林などの活用は考えていますでしょうか。

総務企画課長 現状の計画の中では、鶴岡市産材の活用を想定しています。

総務企画課 今回は基本計画の概要版ということで、理念的な説明が中心となりましたが、具体的にどんなものがあって、どんな風になるかということについては、これからの基本設計の策定の段階で明らかになっていく部分になります。基本設計は今後三箇月ほどで作成を考えておりますが、また改めて地域振興懇談会にお諮りするという形で、御意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますし、各地区の住民懇談会も例年6月7月に開催しており、その際にも同様な形で、皆様に説明しながら進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

会長 その他ということで、私から一つ。7月の前回の地域振興懇談会の時も、奨学金給付制度について意見を述べましたが、今年度の利用状況について分かる範囲でお聞きしたい。また、聞こえてきた話の中で、市役所の職員や県職員になった人たちは該当しないということを聞きました。公務員を目指した家族は、どうなっているんだというふうに思っています。それから、前回話ししましたが、朝日地域の基金を使うのだから、条件不利地というところで、何とか定住を支援できるような制度にして欲しいと話しをしました。つまり、公務員であろうがなかろうが、朝日地域に住んでくれる人には、色んな意味で支援する方向で検討して欲しいです。分かる範囲でお願いします。

総務企画課長 手元に資料がなく、確認して文書でお示しします。

4. その他 なし

総務企画課長 ほかに皆さまから何かございますか。
無ければ閉会のご挨拶を渡部副会長にお願いしたいと思います。

副会長

予定の時間を大幅に過ぎて、皆さん熱心な協議、ありがとうございました。これもちまして、令和3年度第2回の朝日地域振興懇談会を終わらせていただきます。

(終了 15時50分)